

プログラムノート

1868年(明治維新)から50年ずつを50年紀(造語です)と呼ぶと、第一50年紀(1868~1917)、第二50年紀(1918~1967)、第三50年紀(1968~2017)、第四50年紀(2018~)となります。それぞれ、第一50年紀は西洋の追随、第二50年紀は自分のものが生まれ始めたが戦争の惨禍とその復興の時代、第三50年紀は自分のものの発展の時代ということになります。少し詳しくいうと、第一50年紀は、明治維新後の西洋の模倣時代。第二50年紀は大正デモクラシーから始まって、太平洋戦争の敗戦とそこからの復興の時代。音楽では毎日、運命や田園を演奏し(ラジオを含む)、12月には第九を演奏する。1966年にはカラヤンとベルリンフィルが来日して、ベートーヴェンの交響曲全曲を演奏しました。すなわちベートーヴェン時代といえます。第三50年紀、戦争の痛手が癒えて来た1965年、東京都交響楽団が設立されましたが、目標としてマーラーを演奏することが謳われました。これ以降、第三50年紀はマーラーの時代ということも出来ます。お金が貯まって全国各地に作られた音楽ホールで、大オーケストラが大音量で演奏し、東京は世界最大の音楽市場となって、お金の余裕のある聴衆がブラボーを叫ぶ風景が定着しました。一方、この時代は、同様に各地に建設されたアリーナでのポップスのコンサートが大興隆をもたらしました。ちなみに経済効果は、ポップスの方がはるかに大きいのです。

第四50年紀は始まったばかりですが、全体としての経済規模が第三50年紀を経て巨大になった結果、どのジャンルをとっても選択しきれないくらいコンテンツがあふれています。だから今は、いい曲を選んで大事に味わえばいいのです。第三50年紀ではベートーヴェンの代わりにマーラーばかり演奏している印象を持っていましたが、本日演奏のクロイツェルも、昔(第二50年紀)はよく聴いていた印象がありますが、最近聴くことが少ないなと思っていました。オリンピックを直に観戦するほうがテレビで見るより良いように、音楽もライブで聴く方が良いのです。これが本日のリサイタルを企画した理由です。2020年にはベートーヴェン生誕250年が祝われました。2027年は同じく没後200年を迎えます。第四50年紀は再びベートーヴェンを味わう時代になると思っています。

ベートーヴェン：ヴァイオリンソナタ第2番 イ長調 Op.12-2

モーツァルトやベートーヴェンは、ひとつの作品番号で、-1,-2,-3と複数の曲を一度に作る事が多々あります。発想があり余って溢れ出るからだと思えますが、天才のなせるわざと言えます。この曲も3曲のソナタの2番目ですが、ウィーンに来て数年後、ベートーヴェン28歳の時の、陽気で快活な曲です。

ベートーヴェン：ヴァイオリンソナタ第5番 へ長調 Op.24「春」

ヴァイオリンソナタ第5番Op.24は、幸福感に満ちた明るい曲想から「スプリング(春)ソナタ」の愛称で親しまれています。この曲も、ヴァイオリンソナタ第4番イ短調Op.23と同時に作曲されました。後の大傑作、交響曲第5番ハ短調「運命」と第6番へ長調「田園」が同時に作曲され、対照的性格を持った短調と長調の2曲セットの「対作品」となっているのと同様です。

ベートーヴェン：ヴァイオリンソナタ第9番 イ長調 Op. 47「クロイツェル」

ヴァイオリンソナタ第9番は、ベートーヴェン中期の傑作群のうちの一作曲で、ヴァイオリニストのR・クロイツェルに捧げられたために『クロイツェル』の愛称で親しまれていますが、初版の楽譜には、「ほとんど協奏曲のように、相競って演奏されるヴァイオリン助奏つきのピアノソナタ」と記されています。古典派のヴァイオリンソナタは、「ヴァイオリン助奏つきのピアノソナタ」で、ピアノが主である曲が多いのですが、この曲はヴァイオリンとピアノが対等であることが特徴的です。

参考文献：
・ベートーヴェン(作曲家・人と作品シリーズ)平野昭
音楽之友社
・Wikipedia

Rzp LLC主催 次回演奏会
2025.1.19(日)
上原彩子 ピアノ・リサイタル
小田原三の丸ホール大ホール

Rzp LLC (Rzp 合同会社)
e-mail: ryouzanpaku703@icloud.com
web: https://www.rzp703.com

石田 泰尚

ヴァイオリン・リサイタル

2024.5.19(日)
小田原三の丸ホール
大ホール

ごあいさつ
石田泰尚さんのヴァイオリン・リサイタルにお越しいただきありがとうございます。
石田泰尚さんは2019年に石田組の公演を小田原市民会館で開催し、三の丸ホールが出来てからも2回、小ホールにて演奏頂いています。
今回は、石田泰尚さんを聴きたいお客様はもっといらっしゃるはずだと大ホールにての公演を企画いたしました。お客様は日本全国からお出でいただいています。
曲はオールベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタを選んでいただきました。
ごゆっくりお楽しみください。

Rzp LLC
代表 磯部 波男

プログラム

ベートーヴェン：ヴァイオリン ソナタ Beethoven : Sonate für Pianoforte und Violine

石田 泰尚(ヴァイオリン)
岡本 知也(ピアノ)

ヴァイオリンソナタ第2番イ長調 Op.12-2

第1楽章 アレグロ・ヴィヴァーチェ
第2楽章 アンダンテ・ピウ・トスト・アレグレット
第3楽章 アレグロ・ピアチェーヴォレ

ヴァイオリンソナタ第5番へ長調 Op.24「春」

第1楽章 アレグロ
第2楽章 アダージョ・モルト・エスプレッシオーヴォ
第3楽章 スケルツォ：アレグロ・モルト
第4楽章 ロンド：アレグロ・マ・ノン・トロッポ

休憩

ヴァイオリンソナタ第9番イ長調 Op.47「クロイツェル」

第1楽章 アダージョ・ソステヌート - プレスト
第2楽章 アンダンテ・コン・ヴァリアツィオーネ
第3楽章 プレスト

プロフィール



石田 泰尚【ヴァイオリン】ISHIDA Yasunao
神奈川県出身。国立音楽大学を首席で卒業、同時に矢田部賞受賞。新星日本交響楽団コンサートマスターを経て、2001年神奈川フィルハーモニー管弦楽団ソロ・コンサートマスターに就任。以来“神奈川フィルの顔”となり現在は首席ソロ・コンサートマスターとしてその重責を担っている。これまでに神奈川文化賞未来賞、横浜文化賞文化・芸術奨励賞を受賞。結成時から30年参加するYAMATO String Quartet、自身がプロデュースした弦楽アンサンブル“石田組”など様々なユニットでも独特の輝きを見せる。

2018年には石田組がNHK-FM「ベストオブクラシック」およびBSプレミアム「クラシック倶楽部」で放送されその熱いステージの様子は大きな反響を呼び、2019年にはEテレ「ららら♪クラシック」で特集が組まれた。2020年4月より京都市交響楽団特別客演コンサートマスターを兼任。2022年に初の著書となる「音楽家である前に、人間であれ！」を刊行。5月～9月にかけてミューザ川崎シンフォニーホールにて無伴奏から協奏曲まで様々な編成で演奏する「石田泰尚スペシャル 熱狂の夜」を開催。2024年は6月より「石田泰尚スペシャル 熱狂の夜 第2章」、11月10日に石田組で日本武道館公演が予定されている。最新アルバムは2024年4月にリリースされた『石田組 結成10周年記念2024・春』。使用楽器は1690年製G.Tononi、1726年製M.Goffriller。

岡本 知也【ピアノ】OKAMOTO Tomoya

国立音楽大学附属音楽高等学校を経て同大学を卒業し、渡仏。パリ地方音楽院上級課程ピアノ科をディプロムを取得して卒業。帰国後、国立音楽大学大学院音楽研究科修士課程を修了。ソロはもとより、アンサンブルピアニストとして内外の演奏家との共演を重ねる。第10回神戸国際フルートコンクールをはじめ、日本木管コンクール、日本フルートコンヴェンションコンクールでは公式伴奏者を務める。また、東京フィルハーモニー交響楽団には鍵盤楽器奏者として客演しているほか、映画やドラマのサウンドトラックやTV-CMなど、スタジオワークにも参加している。第19回かながわ音楽コンクールユースピアノ部門にて特選、第14回ブレストピアノ国際コンクールでは審査員満場一致の一等メダルを獲得。第34回霧島国際音楽祭賞受賞。第21回友愛ドイツ歌曲コンクールにて優秀共演者賞、第12回秋吉台音楽コンクール室内楽（二重奏）部門では第1位と山口県知事賞を受賞。永田純子、平澤一博、安藤丘、三木香代、イヴ・アンリ、練木繁夫の各氏に師事。現在、東京藝術大学音楽学部管打楽科伴奏助手、国立音楽大学ピアノ科非常勤講師。

